



代表理事組合長 鮫島忠雄

新年あけまして

おめでとうございます

組合員並びに地域の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。また、日頃より当J Aの事業運営に格別のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年は、平成から令和へと年号も変わり、各種の皇室行事も執り行われるなど国民にとっては慶ばしい年となりました。

しかしながら、気象災害が各地で発生し、相次ぐ台風・大雨等、自然の猛威に見舞われた年でもありました。

管内においては、台風・大雨の被害も少なく、さとうきび・甘藷・ポンカン等順調な生育で、久しぶりに平年並みに回復しました。また、和牛子牛価格も若干の値下げがありましたが、高値で推移している状況であります。

一方、国際貿易交渉については、一昨年の「TPP 11」の合意に続き、昨年は日米物品貿易協定「TAG」がまとまり、今後、農業・農村への影響が懸念される状況であり注視していく必要があります。

また、農協改革について、昨年5月末をもって、「農協改革集中推進期間」は終了を迎えたものの、法制度に関する論点は結論を

得ておらず、准組合員の事業利用制限や信用事業代理店化の議論は、引き続き予断を許さない情勢となっております。

今後も、農業・農協を取り巻く環境は厳しい状況が続くことが想定されますが、農政連と一体となり農政活動に取り組んで参ります。

このような状況のなか、J Aグループでは、平成30年12月開催の第26回J A県大会で、将来の方向性に向けた大同団結の意識を高め、J A・県連の協同事業の進展、J Aの財務・経営基盤の健全化を盛り込んだ「県域事業連携工程表」の策定・実践を決議しました。

当J Aといたしましても、真に評価されるJ Aグループ鹿児島が目指す姿を共有し、「協同でつなぐ持続可能な農業とくらしの未来」の

実現のため、令和元年度からの第5次中期3カ年計画の初年度として、総合事業継続による農業振興と地域貢献活動に邁進するとともに、地域の特産性に連動した総合事業体の強みを活かした事業展開により、組合員・地域住民の営農とくらしのサポートに取り組んでおります。今後も、組合員・地域の皆様方と共に歩み、信頼されるJ Aを目指して参りますので、ご指導・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい一年が皆様方にとりまして、より良い年になることを心からご祈念申し上げます。年のあいさつといたします。

